



22校が研究成果発表

中高生生物研究
コンテスト

水戸一高など金賞

筑波大

二〇〇九年七月に日本で初めて開催される「第二十回国際生物学オリンピック(生物五輪)」を多くの中学生や高校生に知ってもらおうと、生物五輪の会場となる筑波大(岩崎洋一学長)で二十四日、「つくば生物研究コンテスト」(国際生物学オリンピック2009組織委員会など主催)が開かれ、県内外の中高校生がこれまでの研究成果を発表し合った。

コンテストには県内をどが日ごろのクラブ活動はじめ、関東地方を中心に研究してきたもので、に二十二の中学高校が出会場で、生徒が手書きのポスターを使い組織委員会の担当者らに丁寧に説明していた。審査の結果、金賞には生物に関する研究成果を説明する出場者―筑波大

佐野日大高(栃木県佐野市)と水戸一高(水戸市)が選ばれたほか、銀賞は茗溪学園高(つくば市)と早大学院(東京)、銅賞は竹園高(つくば市)と西湘高(神奈川県小田原市)・湘光中(神奈川県大井町)、特別賞は国田中(水戸市)が受賞した。

生物五輪は各国の高校生(二十歳以下で大学生除く)を対象とした「科学五輪」で、一九九〇年の第一回大会以来、毎年開催され、今年の開催国はインド。来年の大会は七月十二日から八日間、筑波大で開かれ、各国四人の高校生以下の選手が出場できる。来年の大会を目指す国内予選は第一次試験が七月二十日、全国各地で行われる予定。(大高茂樹)